

テーマ:地域と共に歩む看護教育の実践—3年間を通しての地域連携教育—

1) カテゴリー:④地域連携

2) 学校概要:上尾市医師会上尾看護専門学校 埼玉県上尾市原市 3494-4

3年課程、1学年40名定員、3年修業



教育理念

人々が健康な生活を営むために必要な地域医療の担い手として活躍できる質の高い看護師を育成する。

私たちの学校では、教育活動のフィールドである原市地区の地域住民との連携教育を通じて、学生たちが地域と共に学び、人々の生活に寄り添った看護を実践する力を養うことを大切にしています。

地域と暮らしの理解(1年次前期)

学校周辺地域でのフィールドワークを行い、住民や地域の関連機関とのインタビューを通して生活の実態を学んでいます。この過程で、学生は地域の課題と魅力を直に感じています。



老年看護演習(1年次後期)

自治会や社会福祉協議会の協力を得て、近隣の単身高齢者への見守り訪問を実施しています。1年次10月から2年次の7月まで約9か月にわたり見守り訪問を継続することで、学生はリアルなコミュニケーションを体験し、高齢者の豊かな人生経験から様々なことを学んでいます。また、高齢者像が変化し、その人それぞれの生活背景や個性についてより深い理解を得ることができます。



地域・在宅看護演習(2年次前期)

1年次から見守り訪問を継続したことの学びから、高齢者の健康課題と強みを見出し、その人らしく地域で生活するための提案を地域住民に向けて発信します。学生は地域での生活を支える具体的な方法を学び、発信力を養います。



地域・在宅看護論実習Ⅲ(3年次前期)

上尾市の「通いの場」で行われている、住民主導型の運動教室に参加する実習を行います。高齢者の健康意識の高さを理解し、地域の互助の力が健康水準の向上に寄与していることを学びます。これらの取り組みを通じて、地域の生活を理解し、看護が生活の中に根差す必要性を実感しています。

災害看護(3年次前期・後期)

学校を避難所と見立て、避難所設営、運営訓練を実施し、地域住民と共に災害時の備えを体験しています。避難所での生活を模擬体験することで、学生たちはリアルな災害対応を学び、住民からのフィードバックをもとに学びを振り返る機会を得ています。



特別活動

1年次から、地域の夏祭りや高齢者向けのスマホ教室などのボランティア活動に参加し、学校祭では地域住民との交流の場を提供し、地域と学校の相互交流を深め、信頼関係を築いています。



3年間を通して地域住民との密接な連携を図ることで、学生たちは生活者としての対象を深く理解し、入院前や退院後の生活をより具体的にイメージする力を身につけています。また、学生は地域社会と共に成長し、看護の未来を切り拓いています。

テーマ：地震に負けない 多くの支援に感謝

カテゴリー：その他

【教育理念】

七尾看護専門学校は、保健・医療・福祉施設や地域において、健康の担い手として活躍できる質の高い看護師を育成することを責務としている。

【学校概要】

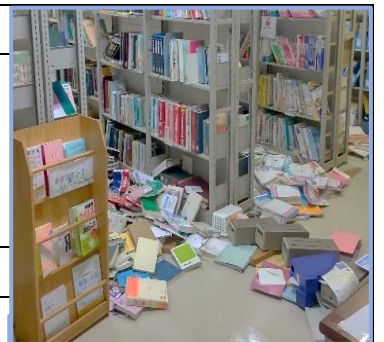
学校名：七尾看護専門学校

所在地：石川県七尾市なぎの浦 156 番地

課程名：3年課程 1学年定員：40名 修業年限：3年



1月1日 16時10分 能登半島地震発生	
1月1日	16時28分 オンラインにて安否確認8人連絡とれず 16時51分 被害状況確認 負傷者学生2名命に問題ない 「家がぐちゃぐちゃで高台に避難中 窓ガラス割れ、塀は壊れ、タンスは倒れ、食器が割れている。」「避難所に避難している。」
1月2日	学生、教職員、家族も含めて全員の無事が確認できほっとした。
1月5日	学校ホームページ等で学校再開に向けて情報配信
1月7日	校舎入室確認
1月9日	職員会議 教室、会議室片付け 全国よりメール、電話で様々な支援の申し出があり 感謝 余震もあり先が見えない不安、心休まらない中、暖かい励ましの言葉に胸が熱くなり、勇気をいただいた。今できることをやっといこうと教職員で声をかけ合う。
1月10日	教務会議 3年生オンライン国試対策開始 被災している卒業生が3年生に差し入れ 感謝
1月11日	管理会議 校長に被害状況報告 受水槽配管修繕 感謝
1月5日～12日	休校
1月19日	1, 2年生オンライン確認、授業再開にむけ健康状態、生活状況、通信状況の確認
1月22日	1, 2年生オンライン授業開始、断水のため給水車にて給水は3月4日まで継続 感謝
2月5日	1, 2年生対面授業開始、1週間毎の健康状態、生活状況の確認継続
3月1日	校舎の修繕を大至急していただき本校で卒業式開催 感謝
3月4日～15日	延期になっていた1年生の基礎実習を恵寿総合病院で開始 感謝



★ 臨時職員からの一言 ★ 様々な会社に働いてきたが、七看ほど「ありがとう」の言葉が日常的に飛び交っている環境は初めてで、とても素晴らしい！

震災後もたくさんのご支援をいただき「ありがとう」の言葉を大切に大切に過ごしている！ **感謝**

◇ 4月：クラウドファンディング開始。「看護学生は能登の宝！」 **感謝**

◇ 5月：**感謝**の気持ちを伝えるため、避難所訪問を開始。

CF支援者さまのコメント



◇卒業生です。能登のこの場所で看護師に生まれて本当に良かったと思っています。未来の能登・日本に明るい光を届ける看護師さんを育ててください。これが少しでもお力になりますことを祈っております。
◇今、看護師として働くことができているのは七尾看護専門学校のおかげです。少しでも支援となれば幸いです。

震災後、本当に多くの支援を受けて学校運営を行っている。全国からご支援いただきありがとうございます。学びを止めず、前に進む強い意志を持って輝かしい未来を学生とともに切り開いていく。



地域共生社会の実現 ～校内に放課後児童クラブの開設～

カテゴリー：連携（地域・多職種等）

【学校概要】

学校名：学校法人宮崎総合学院小林看護医療専門学校

所在地：宮崎県小林市駅南 309 番地

課程名：看護学科3年課程

1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年間



1. 内容

本校は、「社会貢献を基盤とし、地域住民及び関係するすべての人々の健康と幸せに積極的に寄与し、博愛・克己・至誠の精神を土台とした人材の育成」を教育理念に掲げ、西諸医師会、行政（小林市・えびの市・高原町）の全面バックアップのもと、地域をあげて人材育成に取り組んでいる。

開校10年目を迎え、地域貢献の1つとして、令和6年4月から施設内に放課後児童クラブを開設し、約30名の児童がクラブを利用している。小林市の中心にある本校周囲には4校の小学校があり、児童クラブを利用できない待機児童が多いことが地域の課題であった。本学生にとっても、児童の成長発達過程を知り、コミュニケーションを図る機会を得ることは、対象の理解につながり、小児看護の基礎を学ぶ機会になっている。実際の様子を紹介する。

2. 放課後児童クラブの児童と本学生の関わりの様子



お兄ちゃんも
地図の勉強した？



折り紙の本見ても
分からないところがあ
るんだけど…

本校の教員もクラブを利用しており、“小1の壁”を乗り越え、子育てと仕事の両立を図っている。

学生は、主体的な学習活動（ゼミ活動）として、放課後の時間を使い、クラブの児童たちと交流を持っている。始めは、どのように接してよいか分からず、児童の様子を見ているだけの学生たちも、支援員の先生方のサポートや好奇心旺盛な児童からの声かけもあり、学習や遊びと一緒に取り組む様子が見られている。

【学生の声】授業で習ったより、成長・発達が早いと思った。あくまでも目安で個人差が大きいことが改めて分かった。（看護2年生）子どもたちが、すごくかわいい。やっぱり小児科で働きたいと思った。（看護1年生）

【児童の声】お姉ちゃんたちが一緒に折り紙をしてくれて嬉しかった。（1年生）

お兄ちゃんたちも、勉強頑張ってるって言ってたから、僕も宿題頑張ろうと思う。（4年生）

3. まとめ

地域共生社会の実現には、生活に身近な地域において、住民一人一人が世代や背景を超えてつながり、相互に役割を持ち、「支え手」「受け手」という関係を超えて支え合う取り組みを育む必要がある。本校の取り組みも、まさにその1つといえるのではないかと考える。学生は、看護学生であると同時に地域住民の一人であり、地域の課題解決に向け、自分ができることは何かを考え、行動していく力を醸成できるような仕掛けづくりを継続して行いたいと考える。